

## 批判的思考態度と文章理解における道徳的読み

○藤木大介<sup>1</sup>・沖林洋平<sup>2</sup><sup>1</sup>愛知教育大学教育学部, <sup>2</sup>山口大学教育学部

キーワード: 文章理解, 批判的思考態度, 道徳的読解スキーマ

Critical Thinking Disposition and Reading Based on Moral Bias  
Daisuke FUJIKI<sup>1</sup>, Yohei Okibayasi<sup>1</sup>Faculty of Education, Aichi University of Education, <sup>2</sup>Faculty of Education, Yamaguchi University

Key words: text comprehension, critical thinking disposition, moral reading schema

文章理解の目的はその内容を正しく読み取ることである。もちろん読み手側に解釈の自由はあるが、それは文章の趣旨を正確に読み取った上でのことであろう。理解に基づいて考えを深め、広げること、思い込みに基づいて曲解することとは異なる。殊に説明的文章の読解においてはそうだろう。

学校教育における国語科においても正確な読み取りは前提である。しかしながら、児童生徒の中には国語科における教材の読みと道徳資料からの教訓の読み取りとを明確に区別できない者も多い。その原因はいくつか考えられるが、初等国語で用いられる教材の多くが道徳的に望ましい結論を持ち、正確に読み取ることと道徳的に望ましい読みをすることとの区別を付けられないまま、国語科に対する教科観を形成してしまうこと等があげられる。

舛田(2008, 2010, 2011)は、文章に明示されていないにもかかわらず、あえて道徳・教訓的な意味づけを行ってそのテーマを把握するよう方向付ける読解の枠組みを「道徳的読解スキーマ(the moral reading schema; MRS)」と呼んでいる。例えば舛田(2008)は、要約産出において情報を欠落させる者は道徳・教訓的な観点をもちがちであることを示した。また舛田(2010)は、MRS 的読解をする者は自分なりの理解を重視し、MRS 的読解をしない者は第三者の視点に則った理解を重視することを示した。

また、読み手の信念と読みの正確さとの関連に関する研究として Schraw & Bruning (1996)は、より一般的に、読み手の文章に関する認識論とそれに基づく暗黙の信念が読み手と与える影響について検討している。その結果、書き手の意図に沿って客観的に読むべきであるという伝達信念(transmission belief)を持つ読み手は文章再生が劣るのに対し、主体的に意味を構成し主観的視点と客観的視点とから読むべきであるという相互作用信念(transactional belief)を持つ読み手は文章再生に優れ、質の高い解釈文を産出することが示されている。

これらのことから、文章の正確な読み取りには複数の視点に基づいて中立的な理解をしようとする能動的な読みが重要であると言える。そのような読みとして、「テキストが伝える情報の確かさを判断しながら批判的に読む(小嶋, 1996, p.198)」、批判的思考を働かせながらの読み(市川, 2001)がある。この批判的読解は MRS 的読みのようなある特定の方向への読みのゆがみの回避にも影響を及ぼすのであろうか。そこで本研究では、批判的思考態度を有しているか否かが MRS 的読解と関わるのかを検討する。特に、批判的思考態度のどの側面が MRS 的読解と関わるか検討する。

## 方法

参加者 大学生, 大学院生 82(男性 24, 女性 58)名, 平均年齢 20.61 歳(SD = 1.05)であった。

材料 批判的思考態度を測定するために、批判的思考態度尺度(楠見・平山, 2013)を用いた。この尺度は「論理的思考への自覚」「探究心」「客観性」「証拠の重視」の 4 因子, 各因子 3 項目からなり, 5 段階評定するものであった。

また、MRS 的読解を行うかを調べるため、舛田(2011)の用いた 2 つの文章とその結論文としての 3 つの候補を用いた。

結論文は先行する文章の文脈に沿った結論になっている適切文、文脈から逸脱した結論になっている不適切文、文脈から逸脱した抽象的で道徳的な結論になっている MRS 文から成った。ただし本研究では、舛田(2011)のように 3 つの文の結論としての適切さの評定を求めめるのではなく、どの文が適切かの選択を求めるものへ改編した。

手続き 集団実験であった。書面にて実験への参加や自体は自由であることや、取得されたデータは個人を特定しない範囲で学会等で公表される可能性があることを説明した上で、批判的思考態度尺度、及び舛田(2011)に基づく文章の結論選択課題への回答を求めた。制限時間等は特に設けなかったが、おおよそ 10 分で終了した。

## 結果と考察

2 問とも適切な回答をした者(13 名)を正答群, 1 問でも MRS 的読解に基づく回答をした者(42 名)を MRS 群, これら以外の者を(27 名)をその他の群とし, 批判的思考態度 4 因子の因子得点を独立変数とする判別分析を行った。批判的思考態度の因子得点は 3 群を 50.0 % 予測していた(Wilks の  $\lambda = .81$ ,  $\chi^2 = 16.37$ ,  $p < .05$ )。グループ重心の値は, 正答群で 0.14, MRS 群で 0.55, その他の群で -0.48 であった。標準化された正準判別係数は, 論理的思考への自覚で -1.05, 探究心で 0.61, 客観性で 0.26, 証拠の重視で 0.47 であった。

このことから、論理的思考への自覚が低いほど MRS 的読解をする群となりがちであると言える。論理性を保った思考を意識していない者ほど道徳的、教訓的な読みをし、MRS 的読解に基づく結論を選択したものと考えられる。

## 文献

- 市川伸一 (2001). 批判的に読み, 自分の主張へとつなげる国語学習 大村彰道(監) 文章理解の心理学: 認知, 発達, 教育の広がりの中で 北大路書房 pp. 244-255.
- 小嶋恵子 (1996). テキストからの学習 波多野誼余夫(編) 認知心理学 5 発達と学習 東京大学出版 pp. 181-202.
- 楠見 孝・平山るみ (2013). 食品リスク認知を支えるリスクリテラシーの構造: 批判的思考と科学リテラシーに基づく検討 日本リスク研究学会誌, 23, 165-172.
- 舛田弘子 (2008). 説明的文章の読解に及ぼす「観点」の影響 教授学習心理学研究, 4, 61-70.
- 舛田弘子 (2010). 道徳的読解スキーマ(MRS)に影響を受けた読解と読解ストラテジーとの関連について: 説明的文章を題材に 札幌学院大学人文学会, 85, 53-66.
- 舛田弘子 (2011). 道徳的読解スキーマ(MRS)に影響を受けた読解の生起に関連する要因の検討: 説明的文章の結論に対する適切性判断を対象に 教授学習心理学研究, 7, 1-11.
- Schraw, G., & Bruning, R. (1996). Readers' implicit models of reading. *Reading Research Quarterly*, 31, 290-350.

本研究は日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究(C)) (課題番号: 20403595, 代表者: 沖林洋平)による助成を受けて行った。なお、本原稿について荷方邦夫先生(金沢美術工芸大学), 平川真先生(日本学術振興会・広島大学)にご高聞いただいた。記して感謝します。